

苫小牧市における ごみ処理環境の改善

苫小牧高専

創造工学科 河野 友哉・金子 友海

▶ 研究概要

苫小牧市では約 9500 か所のごみステーションを管理しているが、事故やその他の問題が多発している。
本研究では、苫小牧市の**環境に適した新たなごみステーションを開発し、ごみ処理環境の改善**を目指す。

ごみ収集体験とヒヤリング



2024年5月17日 苫小牧市永福町

収集体験、作業に従事している方からの聞き取り調査の実施。
以下のような問題点を確認した。

- 木製製品の劣化
- 蓋の開閉方法、設置場所による開口範囲の制限
- カラスによる被害

ごみステーションが 抱える問題

コスト

潮風で腐食
環境に合わせた手直し
輸送費

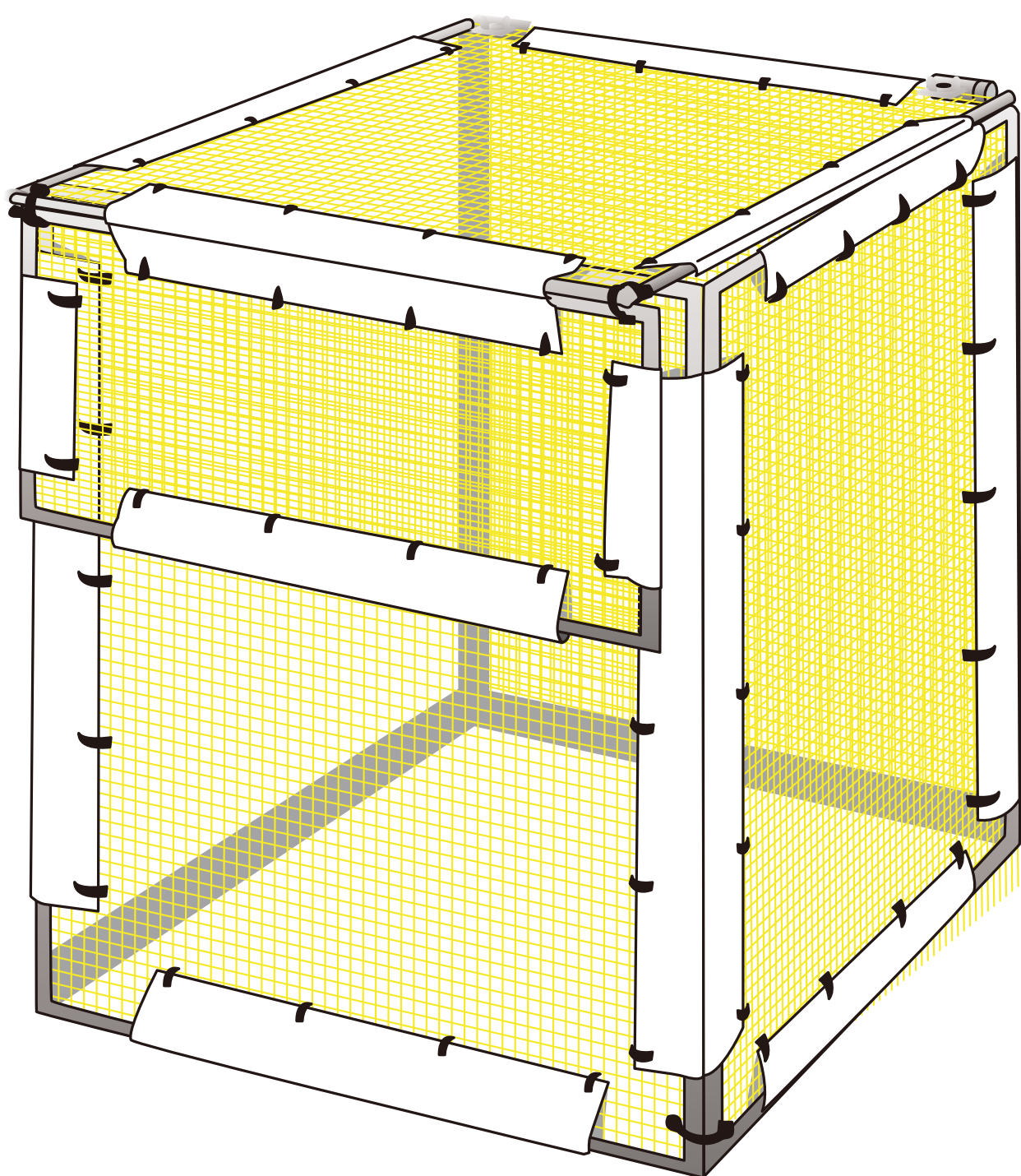
使用性

蓋の形状
収集の利便
折りたたみやすさ

危険性

突風による事故
道路占有
鳥獣被害

課題解決に向けた提案



コスト

- 耐久性のある素材
- パーツごとの交換
- 市内での製造

使用性

- 蓋を支えなくても回収可
- 高さを抑える
- 組合せ次第で様々なサイズに

危険性

- 安定性のある形状
- コンパクトな折畳式
- 鳥獣対策になる黄ネット

概要

寸法(cm) 幅50 × 奥行50 × 高さ65
※設置後も交通に支障がないサイズ

材料 ●ネット：樹脂ネット
●フレーム：アルミ

謝辞 本研究にご協力いただいた苫小牧市役所、日本軽金属株式会社、本校フロンティアコース学生に感謝いたします。



苫小牧工業高等専門学校 総務課 企画調査係

E-mail : kikaku@tomakomai-ct.ac.jp